



近年、人間と動物の関係がますます深まりつつあります。ペットを飼うことにより子供や高齢者のコミュニケーション能力が向上し、積極的に会話するなど効果をもたらします。

医療現場では、アニマルセラピーという形で患者と動物が触れ合うことでリハビリが進んだり、教育の現場では多動症の子供が動物といることで落ち着いたりします。あらゆる現場で、動物は人間に大きな影響を

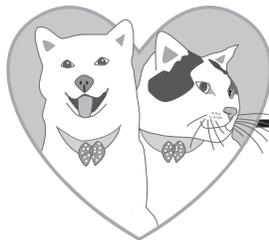
与えていると思われまます。動物は絵画にも描かれてるように、昔から時間と空間を共にしてきました。その中で動物たちは人間に安心感を与えています。もし動物が不安そうな行動をしたなら、人間も不安を感じたのです。

つまり、人は動物の幸せな姿を見てリラックスすることができ、動物の過酷な状況を見てストレスを感じていたのです。今日においても根本は変わりません。

介助犬やペット、セラピードッグなど、その動物たちが置かれた状況により不安、ストレス、怒り、喜び、安心などいろいろな感情を共にしています。動物は私たちの精神とながり、その存在が人に精神安定をもたらします。しかし、その反

愛するペットのために…Vol.392

松波動物病院メディカルセンター
トリマー 岡本奈都子



動物医のアドバイスダイアリー

【ペットと人のつながり】

対もありうることを理解するのも大切でしょう。

次に考えるのは動物の性格です。人間にさまざまな性格があるのと同様に、犬にも受け入れられることや、受け入れられないことがあります。例えば、セラピードッグの場合なら、人に囲まれ、触れられ、聞き慣れない音や見慣れないものなどに平然とし、それだけで楽しく活動しなくてはなりません。

人間と同じように、犬にも持って生まれた性格があり、人に囲まれ尻尾を振って喜ぶ犬や、耳を伏せて逃げってしまう犬、大きな音に平気な犬や、驚きパニックになってしまう犬などさまざまです。性格的に合わない生活環境は、犬も不幸にします。環境にあった犬を求めらるであれば、性格は決して無視することのでき

ない重要なことだと言えるでしょう。

動物も生きていく限り人間と同じように年を取り、運動能力の低下や食欲の減退は避けられません。また、何となく体調や気分が良くない日があり、彼らなりの変化があります。そんな時にそつと対応することも、共に生活する私たちの役目です。

彼らの生活をより豊かにしたいのなら、彼らが私たちに何を求めているのか考えましょう。良質な生活をするためにペットを飼うなら、まず彼らが心安らかに暮らせる環境にしなければなりません。心理的に絆が深まり、私たちの大切な家族やパートナーになってきているペットたち。これからも欠かせない存在であることに変わりはないでしょう。